

経済産業省委託事業

ブラジルにおける模倣品対策の制度及び運用状況に
関する調査

2018年3月

独立行政法人 日本貿易振興機構

サンパウロ事務所

ブラジル国内の模倣品に関する概説

ブラジル国内の模倣品に関する状況の概説

主に、ブラジルの法理学の観点から「模倣品」の定義を考察した上で、本調査報告上、何を「模倣品」と解釈するかを定めることが重要である。現在、模倣（ポルトガル語で「*contrafação*」という）は、商標、特許権、あらゆる著作権などの、あらゆる知的財産に対する侵害行為にあたりとみなされている。また、模倣は、「パイラシー（海賊行為）」という一般的な用語で知られている。

現代の解釈では、「パイラシー」という用語は、15世紀に、海運取引を背景に生まれたとされている。当該用語は、船舶への攻撃および国または国が保証する会社の集合体が出荷した商品の横領を繰り返していた国籍をもたない個人に、より適切に当てはまるものであった。パイラシーという概念は、商業領域に関連する法律の前提に非常に堅くはめ込まれていたため、欧州の船舶は、当該概念が有する、現地の商人に対する略奪行為という特徴を、しばしば合法的なものとなししていた。

16世紀および17世紀中に、ベネチア法およびイングランド法は、特定の出版業者に対し、印刷に関する独占権を付与し、かつ法の支配による統治を確立した（例えば、検閲制度）。19世紀の間、当該用語は、著者の同意を得ずに、またはロイヤルティーを支払わずに、自己の個人的利益のために書籍の複写を頻繁に行っていた出版業者に対し繰り返し適用された。当時のたいていの議論は、現地の法規が管轄権を有しない諸外国で、認可を得ずに行われる作品の複製を主な対象としていた。当該用語は、昔の用法および新たな意味のいずれにおいても、財産または専属的権利への侵害を意味するため、両者は相互に関連性を有している。

模倣に関連した、「パイラシー」という用語の当該用法（例えば、知的財産権の侵害）は、20世紀の間に普及した。当該用語は、その他多くの物品および製品（特に、書籍、医薬品、靴、衣服など）に適用された（そして、現在に至るまで適用されている）が、一般的に、いかなる違法な侵害についても用いられている。

現在、模倣に対する戦いが、多くのさまざまな地域で行われている。財産の違法な使用、流通および生産に関する法律および論法は、保護貿易論者による無形財産（商標、特許および著作権等）に対する支配を徐々に強めていくような政策に集中している。

第三者の製品を複写し、複製し、または販売する行為は、当該第三者の権利ならびに当該第三者の主要な商標の制作者およびその所有者の意思を軽視する行為であり、かつこれらの製品が原製品ではないことに疑いの余地を残さない行為である。少なくとも文学作品に関する複製権には期間制限があったため、当該問題は数世紀にわたり世間の人々を悩ませているものの、当該行為が、基本的に、パイレシー（すなわち、過去に（特に、アフリカ東海岸で）行われた行為となお同時に存在し、かつ広められてきた違法行為）の現代の定義であり、かつ最近の重要な討論および議論の対象でもある。人類による最も偉大な創作物の中には、著作者が誰であるかという紛争に振り回されたものばかりではなく、多くの人々に複写されたものもあり、これらの人々は皆、当該作品に対する法律上の、知的財産としての、および／または金銭的な評価を得ようと試みていた。

模倣は、発明者、芸術家、演奏家、執筆者およびその他の一般の知的財産所有者（これらの者には、限られた期間において、自己の創作物を知覚する権利を利用する専属的権利または当該権利に関するライセンスを他者に付与する専属的権利、および所定の期間において自己の創作に対する金銭的補償を受領する権利が与えられた）に影響を及ぼす。

世界中で行われている模倣により生じる社会問題は、利用権の保有者が被る単なる金銭的損失よりも難しい問題である。すなわち、模倣により闇市場が創設される結果、非公式の仕事が生まれるが、そこで働く労働者は一切保護されず、または一切の保証を受けない。また、「海賊版製品」は、これに対する税金が徴収されないため、社会全体に対して損害をもたらす原因となる。さらに、当該行為は、その他の違法行為（麻薬密売ならびに強制労働および／または児童労働の搾取など）のための資金源になるとともに、ますます巧妙化したといわれている。

ブラジル国内の主な模倣品市場

ブラジルでは、地域間の相違は相対的に大きくはないが、特定の地域では、模倣品が発見される可能性がより高くなっている。模倣の影響について、模倣に遭遇した一般的な第三者は、通常、二つのカテゴリーに基づき模倣に対処する。第一のカテゴリーには、真正品の代用という目的がないにもかかわらず、原製品との全体的な類似性を維持している模倣品が含まれる。第二のカテゴリーには、原製品と取り替えることが可能なほど、著しく類似している製品が含まれる。当該第二のカテゴリーのもとでは、使用者が、模倣された物品であることに気付いているか否かが問題となるのではなく、固定客が、当該模倣された製品を原製品であると勘違いする可能性があるか否かが問題となる。

上記の二つのカテゴリーの経済的影響力は、わずかに異なる。なぜなら、第一のカテゴリーは、製品（および／または商標自体）に対して影響を及ぼし、第二のカテゴリーは、商標のみならず消費者をも傷つける可能性があるからである。

重要なことは、各状況における影響が異なるとしても、知的財産権者は常に犠牲者である点および法的に言えば、両方の状況ともに、これを知的財産権の侵害であるとみなさなければならぬ点を強調することである。

場所の特定について、模倣された物品の流通は、常に、多くの人々が集中する場所（流通が強制的に行われる地域など）と関係する。このような場所は、都市では、一般的に商業地域および交通の拠点と関係しており、このような地域が、模倣された物品が最終消費者に販売される地域である旨を強調することが重要である。明確な境界線または区分は存在しないが、消費者向けの流通の他に、生産地域、輸入地域、流通地域および当該物品が消費される地域があると考えられることができるだろう。

主要な流通の中心地であると明確にみなすべき場所は、数カ所ある。(i) 一般物品のための特定地域 (Rua 25 de Março) を含むサンパウロの商業地区、(ii) 「Bras」および「Bon Retiro」区域の衣料品、(iii) Rua Santa Efigenia およびその周辺地域の電子機器である。リオデジャネイロには、サンパウロの「Rua 25 de março」と類似する、「Sahara」と呼ばれる特定の商業地域が一カ所ある。通常の流通に追加して行われる流通は、非公式の行為の一部となっており、その規模の評価はやや困難である。

これを柔軟性のない考察であるとみなすべきではないが、生産は、通常、現地生産と輸入品を組み合わせで行われる。例えば、製品を構成する幾つかの部分が輸入される一方で、他の部分は現地で生産されている可能性がある。

経済の一セグメントに関連する産業が集中する、大規模な場所を有する地域がある。例えば、一般的に、衣料品および繊維製品の生産で有名なゴイアス州の Jaraguá 市は、その一例である。



図1 ブラジルのゴイアス州 Jaraguá およびゴイアス州の位置²

模倣品の生産の大部分を行わせるために、合法的な請負人およびブランドが狙われる一方で、当該生産の一部は、非公式の市場に振り向けられる。そして、状況によっては、これが、模倣された製品の大量生産の契機となる可能性がある。

² ウィキペディア。Raphael Lorenzeto de Abreu により作成された画像、CC BY 2.5、<https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=1154653>



図2 警察が押収した、20,000点を超える模倣された製品（ゴイアス州 Jaraguá）³

注目に値する第二の場所は、ミナスジェライス州 Nova Serrana 市であり、同市は、模倣された靴の生産および流通の中心地として名指しされてきた。同市もまた、港湾との直接的な関係またはその他の明確な国際的な関係がない地域内に位置しているが、かなりの数の靴の製造会社を招致している。

特定の地域に類似産業が集まることは一般的であるため、当該産業の低い占有率、知識の欠如および権利行使によって、小規模企業が、模倣された製品を生産せざるを得なくなることがある。ブラジルの現状と同様に、経済危機の間に悪化する可能性がある状況である。

実際、SPC（ブラジルの信用調査機関）による 2015 年以降の調査によると、ブラジル人の 69%が、すでに模倣品を購入したことがあり、当該模倣品の大部分は、衣料品（39%）、履物（22%）および電子製品（17%）であった。これは、すでに 4,530 万人の人々が偽造された製品を購入したことを意味する。消費者の 49%が真正性の欠如を隠し、大部分の人々は、55 年間「C」の社会階級にあり、その教育水準は低く、加えて面談による調査対象者の 48%は、購入時においてすでに、真正性について欺かれていたことを考慮すると、模倣品により、ブラジル市場では、300 億ブラジル・レアルが失われていると見積もられている⁴。

³ 出所：ゴイアス州の民警。
<http://g1.globo.com/goias/noticia/2016/12/policia-detem-tres-e-apreende-cerca-de-r-1-milhao-em-roupas-falsificadas.html>

⁴ 出所：<https://www.spcbrasil.org.br/pesquisas/pesquisa/938>

模倣品の流通ルート

特定地域における現地生産に加えて、模倣された製品の主要な原産地が、依然として、中国および／またはその他の同様の構造を有する国々などの、大規模な工業生産が行われ、かつ人件費が低い国々である旨を明らかにすることが重要である。ブラジル国内の輸入場所について、主要なルートは、ブラジルの港湾であり、取扱量を考慮すると、主要な港湾は、(i) サントス港、(ii) Itaguaí (Sepetiba) 港、および (iii) Paranaguá 港である。

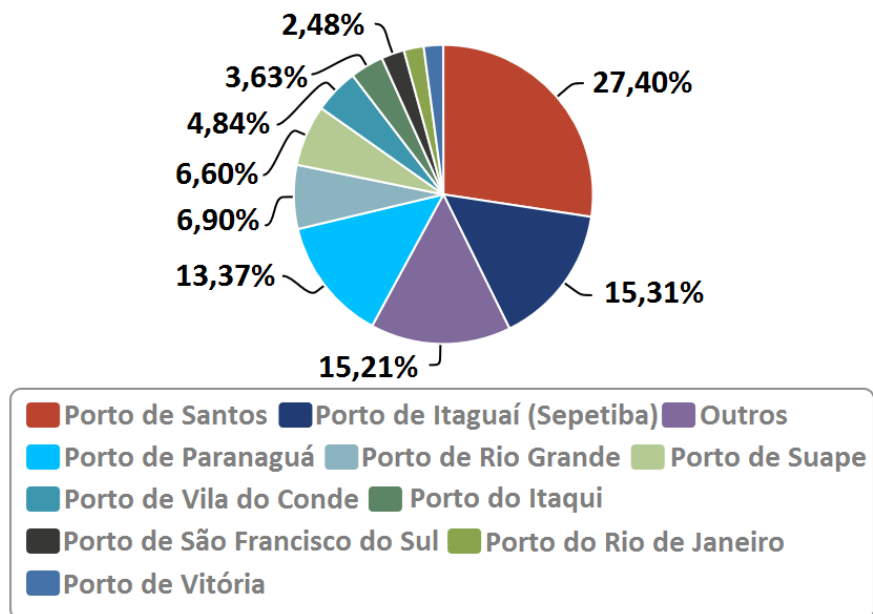


図3 2017年1月および2月のブラジル港湾取扱量⁵

特定地域内の現地生産および重要な工業生産国からの輸入は重要であるが、一方で、模倣された製品に重要なルートを提供しているブラジルの国境の一つがパラグアイとの国境であり、特にマツグロツソ・ド・スル州の Pontaporã 市およびフォス・ド・イグアスに言及しておく。

⁵ 出所：(<https://webportos.labtrans.ufsc.br/Brasil/Movimentacao>) 2017年4月3日アクセス。



図4 マットグロッソ・ド・スル州の Pontaporã および
パラナ州フォス・ド・イグアスの位置⁶

これらの「港湾」の重要性を立証すべく、IDESF（「*Instituto de Desenvolvimento Econômico e Social de Fronteir*」という名称の NGO）が詳細に作成した選集「The Cost of Counterfeit」では、当該犯罪行為により、最も影響を受ける 10 の部門の順位付けを行っている。第一位には、煙草が挙げられている（煙草を扱う一団は、最も暴力的で、かつ麻薬取引をも制圧している一団であるとして、警察当局に知られている）。続いて、次のセグメントが挙げられている。すなわち、医薬品、眼鏡、時計、コンピューター、電子機器、香水、玩具、衣料品および飲料品である。

模倣による収益性は、途方もなく高い。連邦歳入事務局 Federal Revenue Secretariat のデータによると、パラグアイからブラジルへの取引だけ見ても、200 億ブラジル・レアルが、模倣された製品に関連して流通している⁷。

ブラジル反模倣品協会 Brazilian Association against Counterfeit (ABCF) は、2014 年に、ブラジルにおける違法物品の押収作戦の実施状況を公表した。ABCF は複数の州の民警と連携して、全体として、1,200 の作戦（前年比 34%増）を完遂した。主な押収品は、煙草、衣料品および奢侈品などである。サンパウロ州は、ブラジルの主要な消費市場であり、模倣された物品の目的地として選好されている。工業化品の偽造および模倣により最

⁶ Abreu, Raphael Lorenzeto, CC BY 2.5, <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=835931>、<https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=1365175>。

⁷ 出所：IDESF-2015 年。 <http://www.idesf.org.br/post/o-custo-do-contrabando> で入手可能。

も影響を受ける市場として第二位に来るのは、パラナ州であり、その次に、リオグランデ・ド・スル州、ミナスジェライス州、バイーア州、ペルナンブーコ州、ゴイアス州、パラ州、リオデジャネイロ州が来る⁸。

⁸ 出所：FNCP－2015年。<http://www.fnep.org.br/forum/release/170> で入手可能。